

#### 講演タイトル

触媒討論会における B 講演への申込方法について

講演者名・所属(すべて記載してください, 講演者に○をつけてください)

(△大<sup>1</sup>, ◇大<sup>2</sup>)○触媒 太郎<sup>1</sup>, 活性 花子<sup>1</sup>, 転化 次郎<sup>2</sup>, 選択 三郎<sup>1</sup>

#### 講演者(当日登壇される方)

名前 触媒 太郎  
所属 △△大学大学院理学研究科  
役職・学年 博士後期課程 1 年生  
電話番号 0123456789  
E-mail xxxxxxxx@yyyy.zzzzzz.ac.jp

#### 講演責任者(内容について責任を持たれる方, いわゆる corresponding author)

名前 選択 三郎  
所属 △△大学大学院理学研究科  
役職 教授  
電話番号 0123456789  
E-mail xxxxxxxx@yyyy.zzzzzz.ac.jp

#### 討論したい事項(具体的に記述し, 原則として 3 つ程度に絞ってください)

- ① B 講演の討論時間 15 分は妥当であるという結論について
- ② 発表は要旨に記載したデータしか用いることができないというルールへの認識率
- ③ B 講演では討論点があるかどうか重要なことの理由

#### これまでの発表状況

- 触媒学会, 第 XXX 回触媒討論会, A1 講演, 講演番号 3F08
- 触媒学会, 第 XXX 回触媒討論会, A2 講演, 講演番号 1G12
- 日本化学会, 第 XX 春季年会, 講演番号 2B2-34
- 7<sup>th</sup> International Congress on Catalysis, ポスター発表, 講演番号 123

新たな議論ポイント(各討論したい事項について 150 字程度で具体的に説明してください)

- ① これまで B 講演の討論時間は長すぎるのではないかという議論がなされていたが、今回 40 歳以下を対象にしたアンケートを実施し、多くの研究者から討論時間 15 分が妥当であるという回答を得た。これまでの議論について再検証する必要がある、議論ポイントとなりうると考えている。
- ② 最近では要旨に記載されていないデータがしばしば講演で示されることが多くなった。座長の許可があれば示すことも可能であるがこのルールもあまり知られていない。そこで、本発表では認識の低さを様々な観点から数値化し、それに対する解決策を提案し、議論したい。
- ③ ここ最近の B 講演では、一方的に新規性を主張するのみで、その後の議論が全くかみ合わない講演が増えている。討論したい事項をどのように書けば、有意義な議論につながるのか、我々の見解を提案し、その妥当性について議論したい。

要旨(1000 字程度、図表の説明も含む)

B1 講演は、「討論中心」の発表形式であり、当日登壇する講演者が充分議論する場として提供しています。そのため、聴衆はあらかじめ配布された要旨を熟読して討論会に臨むことを原則としています。従って、当日の発表では提示データと討論したい事項、および結論を変えることはできません。新規または発展途上の研究というよりはむしろ多くのデータが揃っておりすでに成熟した研究が対象です。触媒の機能発現のメカニズムや反応機構などについて大胆な仮説を提唱していただき、多くの研究者とその妥当性を議論していただくことを期待しています。

すなわち、B1 講演で「これまで未発表」であることは要求されません。むしろこれまで A1 講演、A2 講演、ポスター発表などで発表を行ってきたものをまとめ、討論していただくことを希望しています。また、同グループからの同じような内容の B1 講演はできるだけ避けていただいています。ただし、全く異なる研究内容であり討論する意味が充分あれば同グループの講演も受け付けます。申込件数が多い場合は、同一研究グループからの複数発表をご遠慮願うことがあります。

講演者は研究の内容について責任をもって討論できる方に限ります。講演時には、要旨に記載された内容以上のことは原則発表できません。当日の発表は要旨に記載された図や表のデータと討論したい事項に沿って行って下さい。要旨に掲載されていない新規の図や表(新規な事実)を用い、要旨記載の結論やメカニズムなどを変更することは許されません。ただし、発表の際に聴衆が理解しやすいように図表の見え方や視認性を改善することは許されます。

実際の討論の中で、要旨に記載していない詳細なデータの開示が必要な場合には、座長に許可を得た上で使用することはできます。ただし、要旨記載の趣旨が変わらないことが前提です。

B1 講演は討論中心の発表です。研究の新規性を主張する場ではありませんし、他の研究者の助言を聞く場でもありません。有意義な討論を行い、真実を見極めることを目的としています。すなわち、質問に対して、一方的に自分たちの主張を繰り返したり、ただ「分かりません」と答え

たりすることは想定していません。講演者には予稿で作業仮説や想定している機構を恐れずに披露していただき、登壇前に想定される質問について十分に準備して、当日議論に臨むことを求めます。

(981 字)

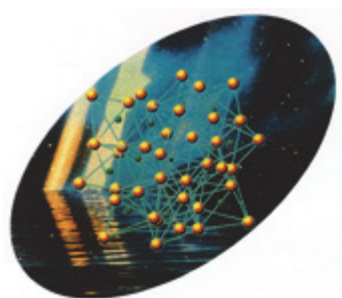
図表 1



図の説明: 一般社団法人触媒学会のロゴ

公式ウェブサイトにも使用されており、よく見ると触媒学会の設立年である 1958 年の表記もみられる。英語表記は Catalysis Society of Japan で略すると CATSJ である。

図表 2



図の説明: 昔の触媒誌の表紙に使われていた絵

おそらく今の学生会員は知るすべもないであろう。誰が作ったのかに興味がもたれる。

図表 3



図の説明: 一般市民向けに「触媒」を紹介したウェブサイト用のバナー

触媒学会は Catalysis Park と呼ばれる一般市民向けの触媒講座を開いており、触媒の普及に努めている。